

シリーズ② ウィズ/ポストコロナ時代における都市政策—自治体と地域イベント運営—

歴史・文化の承継を目的としたイベントとオンラインによる開催の意義について

長岡京ガラシャ祭実行委員会事務局 田邊 八千代

「長岡京ガラシャ祭」は市民の声で生まれた祭りである。そして今日に至るまで、市民の方、事業所の方、団体の方々などの協働によって成り立っている。そのことが、この祭りが始まった本来の意味であり、目的でもある。祭りを通して、多くの人たちが関わり、協力し、一体となることができる。長く長岡京市に住んでいる人も、そうでない人も、交流の場に参加できる。「長岡京ガラシャ祭」の日には、長岡京市に帰ってこようかな、と思ってもらいたい。コロナ禍において、自治体職員ができることは、歴史・文化の承継を絶やさないことであり、新しい取組み（オンライン）によるイベントの開催であった。

1 長岡京市と「長岡京ガラシャ祭」の歴史

長岡京市は、かつて「長岡京」の都がおかれ、王城の地としても栄えたまちである。近年は、京都・大阪の中間に位置していることから、ベッドタウンとして発展してきた地域でもある。わずか19km²の小さなまちではあるが、鉄道駅が3駅、高速道路のインターチェンジがあるなど、交通の便がよく、また市域の4分の1を占める西山という豊かな自然と歴史に恵まれたまちである。

人口は、1950（昭和30）年代頃から増え続け、1970（昭和45）年に5万人、1975（昭和50）年には6万5千人を超え、現在では8万人超の市民が生

活している。1972（昭和47年）に市制施行され、今年でちょうど50周年の節目となる。一方で、歴史が長いまちであるため、古くから地域に住んでいる住民と新興住宅地の住民とが混在する住民構成となっている。

そのようなまちの一大イベントともいえるのが、「長岡京ガラシャ祭」である。祭りと言えば、神事から始まっている伝統的なものも多いが、「長岡京ガラシャ祭」は、明智光秀の娘「玉」のちの「ガラシャ」の豪華絢爛なお輿入れ行列を現代に甦らせてはどうか、という市民からの「ふるさと創生市民提案」により選ばれた企画である。「ガラシャ」は、父・光秀の謀反のあとの不遇な時代が描かれることが多いが、16歳で細川忠興に嫁ぎ、約2年間の幸せな新婚生活を本市にあった「勝龍寺城」で過ごしたと言われている。市民提案の当時、勝龍寺城は城跡のみであったが、市制施行20周年を機に、約3年をかけて「勝龍寺城公園」として整備され、1992（平成4）年春に開園し、同年11月から、「長岡京ガラシャ祭」は始まった。

写真1 JR長岡京駅前から西山をのぞむ



2 「長岡京ガラシャ祭」と住民協働

祭りは、お昼過ぎから、玉・忠興の輿入れ行列を中心に、市内のゆかりの人物 10 名を中心とした歴史文化行列、輿入れをお祝いする町衆祝い行列の総勢約 1,000 人が市の中心部を通り、ゴールの勝竜寺城公園へと約 2.7km を巡行する。沿道には多くの観客の方が市内外から来られ、当日は大変な賑わいとなる。また「楽市楽座」と呼んでいる飲食ブースやステージなどのイベント会場があり、2019（令和元）年度には、全体で約 6 万 5 千人が来場した。

現在では、市外から観に来てくださる方・参加したいという方も増えているが、当初この祭りは、市民がみんなに参加し、全国に誇れるような新しい伝統行事にしたい、またこの祭りによって、市民が住んで良かったと思える、自慢できるような新しいふるさとづくりのきっかけにしたいという思いで始まった。

「輿入れ行列」は、「玉・忠興」の主役を含め、明智光秀や細川藤孝などの配役を募集する。有名どころの数名は、年齢制限もあるが、家臣や侍女、侍童や侍女童など、大人から子どもまで、参加できるスタイルである。例年、市内だけでなく、近隣市町からも参加の応募があり、9 月には公開で配役抽選会を行っている。

「歴史文化行列」は、市内に 10 ある小学校区からそれぞれ選出されており、各地域にゆかりの人物が主役となる。こちらも家臣や侍女なども含め、あわせて 70 名ほどが選出される。

最後に「町衆祝い行列」は、輿入れを祝う人たちで、各々自由なカテゴリーで出演する。地域の幼稚園や学校や長岡京音頭の保存会の皆さんや友好姉妹都市の関係者の方、マーチングバンドの方など、様々な種目そして衣装や音楽で盛り上げていただいている。

加えて、この祭りの実施にあたっては、運営を委託していないことも特徴のひとつである。出演だけでなく、沿道の整理、駐輪場の整理、お弁当の配布等々、裏方も市民や団体の方、ボランティアなどで成り立っている。もちろん警察や消防、警備会社などのプロにお願いしなければならないことも多いが、それ以外の部分はほぼすべて市内の団体の皆さんにご協力をいただいている。

写真2 長岡京ガラシャ祭 2019 の様子



自治会も含めると、総勢 100 ほどの関係団体の皆さんが関わっており、その意味でも市の一大イベントである。このように多くの市民・事業者・各種団体に関わってもらい自分たちで祭りをつくっていくことで、「自分たちの祭り」であるという意識や祭りを通してふるさと意識を持ってもらいたいという思いがある。この 2 年間実施できなかったブランクが懸念されるが、これまでの開催で培った“ふるさとへの祭り”という意識が根付いているとすれば、これほど嬉しいことはないと思う。

3 新型コロナウイルスの影響と「長岡京ガラシャ祭」開催中止

このようなまちの一大イベントが、2020（令和 2）年度、2021（令和 3）年度と新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止とすることとなった。例年、祭りの準備は 5 月～6 月に始まるが、当初、夏には状況が改善しているのではないかと、しばらくは収束が見込めないのではないかなど、情報も、状況も不透明であった。一方でワクチンや処方薬がすぐにはできないということも、言われていた。開催できる準備をしておき、直前に中止の判断をするという意見もあったが、「長岡京ガラシャ祭」は、市内の多くの事業所・団体のご協賛、そして市からの補助金によって成り立っている。中止となった場合、必要なキャンセル料などの費用をそこから賄わなければならないになってしまう。おそらく開催が厳しいこの状況で、そのことを理解いただくのは難しいのではないかと、との判断となり、7 月には 2020（令和 2）年度の「長岡京ガラシャ祭」開催中止を決定した。

しかし、やはり祭りを途絶えさせてはいけないという声もあった。「長岡京ガラシャ祭」は、伝統的

な神事や祭りではないため、市民の祭りという意義が見失われてしまえば、ここまで30年近く続けてきたことを一瞬にして失ってしまいかねないという危機感を持たれていた。また、この年、明智光秀を主演とした大河ドラマ「麒麟がくる」の放映が始まっていた。10年以上の歳月をかけて、本市や京都府、滋賀県の市町で誘致してきた大河ドラマである。当時、「長岡京ガラシャ祭」の舞台となる勝竜寺城公園も、リニューアルをしていたところであった。

このような市民の皆さんの思い、また「長岡京ガラシャ祭」を知っていただけるまたとない機会に何もしない、というわけにはいかない。そこで、当時、言われ始めていた「オンライン」という方法で何かすることはできないか、というアイデアで企画を考え始めた。

4 2021（令和3）年度、「長岡京ガラシャ祭 婚礼の儀」オンライン開催の意義について

2020（令和2）年当初は、新型コロナウイルス対策に今ほどの知見もなく、万が一、感染すればニュースになり、生活に大きな負担のかかる時期でもあった。そこで、苦渋の決断ではあったが、市民への公募は行わず、市職員を動員して「婚礼の儀」を再現する動画を作る、という企画となった。

これまで祭りの最後に、簡易的に行ってきた「婚礼の儀」をもっとしっかりと観ていただき、意味を知っていただく機会にしようと方針を切り替え、シナリオからすべてオリジナルで作成した。またシナリオの監修には、大河ドラマ「麒麟がくる」の時代考証を務められた静岡大学の小和田哲男先生にお願いした。手前味噌ではあるが、ロケ地はすべて市内で有名な観光地となっている、光明寺や楊谷寺、また勝竜寺城公園で行うなど、「長岡京ガラシャ祭」や長岡京市についても知っていただけるとても充実した動画になったと思う。機会があれば、ご高覧いただければ幸いである。

翌2021（令和3）年は、やっとワクチンが接種できるという状況であった。しかし、緊急事態宣言がたびたび発令されるなど、このあともどうなるのか見通しが立たなかった。「今年は大丈夫では」という声もあったが、他の地域で行われる祭りの開催状況などや、実際に数万人の観覧者が来たらどう対応

するのか、という具体的な対策が見出せず、中止の判断となった。

しかし、前年度と同様にいつか復活するときのために「何か」をしなければならない。

そして、何かをするならば、やはり市民が参加することに意義があるのではないか、という思い、また動画を観た方からの「やっぱり本物が見たい」という声もあり、「玉・忠興」役を2年ぶりに市民から一般公募することとした。当初は応募してくれる人があるのだろうか、という不安もあったが、結果的には10組のカップルが応募してくださり、オンラインで抽選会も行った。

行列巡行はできないが、代わりにいつもの行列巡行のゴールである「勝竜寺城公園」や「楊谷寺」の特別な部屋を使用させていただき、記念のロケ撮影を行った。また「婚礼の儀」は、1,000席ある大きなホールでお披露目し、直接、市民の方に観ていただけるようにした。前年度の動画配信のおかげでYouTubeのチャンネルの登録者数が2,000人以上になっていたため、そちらでもあわせて公開した。

参加いただいた「玉・忠興」役のお二人は、歴史が大好きなお祖母さまを喜ばせようと応募を決められた。そのお祖母さまやご家族やご友人などにとて

写真3 勝竜寺城公園で「玉・忠興」のツーショット
（撮影：稲田大樹）①



写真4 勝竜寺城公園で「玉・忠興」のツーショット
(撮影：稲田大樹) ②



写真5 楊谷寺上書院で「玉・忠興」のツーショット
(撮影：稲田大樹)



写真6 京都府長岡京記念文化会館で「婚礼の儀」を再現（オンライン開催）



も喜んでもらえたと幸せそうにされていた様子に、市民の方に関わっていただくことの大切さを改めて感じた。毎年、「長岡京ガラシャ祭」を通して、出演者の方々に様々なドラマが起こり、その感動を一生の思い出にさせていただくことが、「市民でつくる祭り」の第一歩なのだと感じる事ができた。

5 「長岡京ガラシャ祭」が3年ぶりに復活

この2年間に試行錯誤の中で新型コロナウイルスとともに事業を行う方法を編み出していくことができた。2022（令和4）年度はいよいよ、祭りが開催できるのではないかと、という機運が高まった。そし

て、やはり「祭りは市民が参加してこそ意義があるもの」という想いを新たにしている。事業計画を立てるにあたっては、人数を減らすなど、規模を縮小してはどうかと考えたことは事実である。しかし、様々なご意見があるかと思うが、「長岡京ガラシャ祭」は、フルスペックで実施するという方針とした。これも市民の方の熱い想いによるものである。

いちばんの懸念は、3年ぶりの行事をみんな覚えてくれているのか、ということである。祭りを開催するには、ご協賛や当日の人員なども含め、多くの人たちのご協力が必要である。これまで、地道ながらも2年間、動画配信や婚礼の儀なども行ってきたが、本物の祭りは3年ぶり。かく言う事務局の筆者も含め4人のうち、3人が祭りを実施したことがない。行列は市内中心部の2.7kmを巡行するため、当日はメイン通りの多くに交通規制がかかる。警察・消防をはじめ、多くの関係団体の方々の協力もあるが、無事に実施できるよう例年以上の調整や周知が必要となる。さらに①飲食ブースでの感染防止対策、②行列巡行に参加される方の着替え場所や休憩場所の確保、③沿道の観客の方々への感染防止対策の周知など、現在、各関係個所と調整を行っているが、例年以上に配慮が必要であることは間違いない。

現在大規模なイベントの開催には、国の定めた「感染防止安全計画」の策定が必要である。その計画を策定し、さらにそれを説明会などで関係者に周知できるようにガイドラインとして落とし込み、今後関係者に配布・公表していく予定である。「長岡京ガラシャ祭」が来年以降も楽しみにしてもらえる祭りとなるためにも、関係者が安心して参加できるよう、特に今年は細心の注意を払いながら開催に向けて準備していきたいと考えている。

30年という時を経て、「長岡京ガラシャ祭」が本市の一大イベントとして認識してもらえるものになったことは、これまで祭りを支えてきてくださった方々の努力の賜物である。「長岡京ガラシャ祭」の50年の節目には、ぜひ市民にとって愛される「伝統行事」となり、全国の人に知ってもらえる祭りになってほしいと願う。そのためにも今年の「長岡京ガラシャ祭」を完全復活させることができるよう、市民の皆さんと頑張っていきたい。